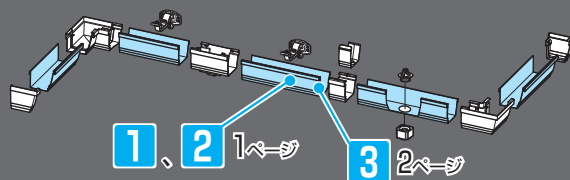
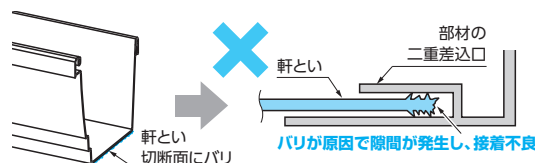


グランスケア PGR60 ④ 軒といの切断



必ず守る

■バリ取りをするときは必ず金切りばさみ、ヤスリなどを使う
切断面のバリは必ず取ってください。
隙間が発生し水漏れの可能性があります。

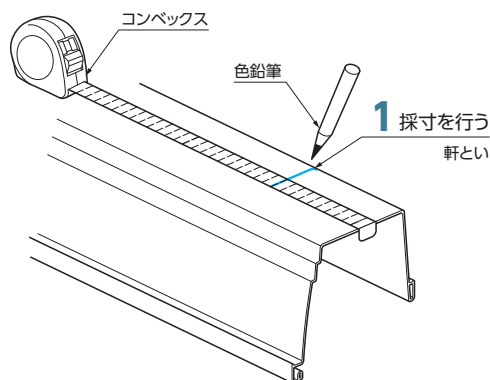
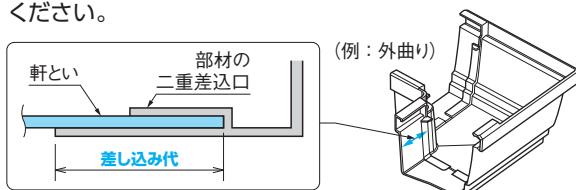


1 軒といの採寸

- コンベックスを使って施工に必要な軒といの長さの採寸を行う。
採寸の際は、差し込み代を考慮してください。

ポイント

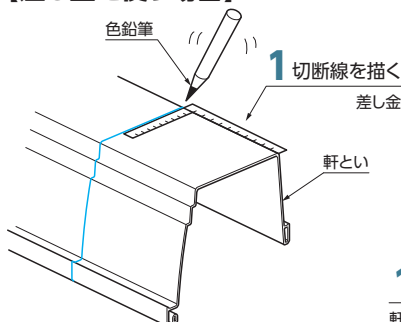
- 軒といの採寸は部材の差し込み代分を含めて採寸してください。



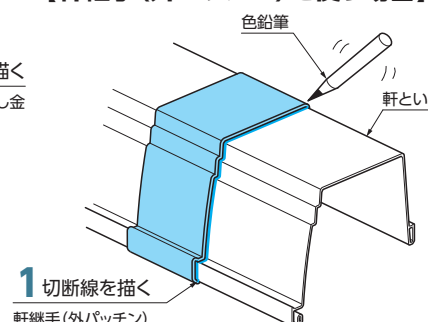
2 軒といの切断

- 軒といの切断箇所に差し金などをあて、切断線を描く。
(直角切断)

【差し金を使う場合】



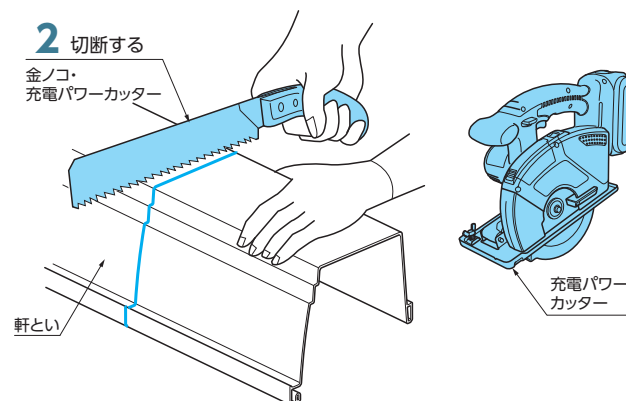
【軒継手(外パッチン)を使う場合】



- 軒といは金ノコ、充電パワーカッターなどで切断する。

お願い

- 充電パワーカッター使用時の安全に関するご注意
- ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みください。
 - 安全カバーは絶対に外さないでください。
 - 作業時は保護具を使用してください。切断くずや粉じんが目や鼻に入るおそれがあります。
 - 薄板金工刃を使用してください。

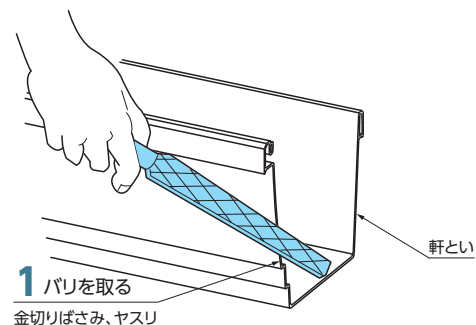


3 切断面の補修

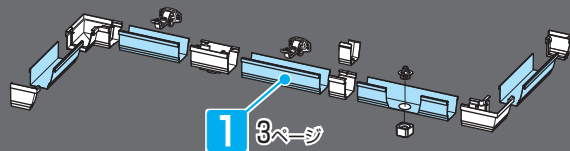
1 軒とい切断面のバリは金切りばさみ、ヤスリなどで必ず取る。

お願い

- 切断面のバリは軒継手や曲りの取り付け時に隙間が発生する場合がありますので必ず取ってください。
(水漏れ防止のため)
- 切断面は接着剤を塗布し、端面処理をした方がさびの防止に効果的です。



⑤ 軒といの施工



注意

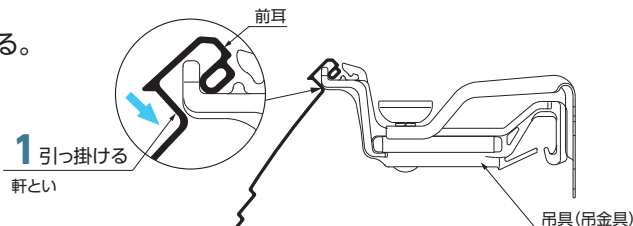


必ず守る

■前耳・後耳をしっかり吊具(吊金具)にはめ込む
軒といの外れ、落下により、けがをするおそれがあります。

1 吊具(吊金具)への軒といの取り付け

1 軒といの前耳部を吊具(吊金具)の先端に掛ける。



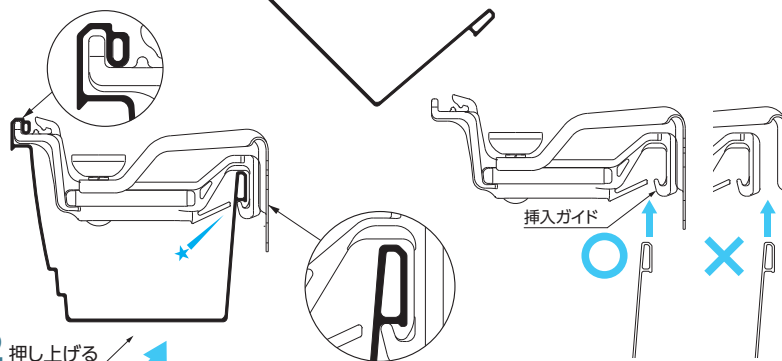
1 引っ掛ける
軒とい

2 軒といの底部を押し上げ、
軒といの後耳部に吊具(吊金具)を
はめ込む。

ポイント

- 必ず前耳から取り付けてください。
後耳を入れた後には入りません。
- 軒といの後耳が吊具(吊金具)の
挿入ガイドの外へ入らないように
してください。

2 押し上げる
軒といの底部

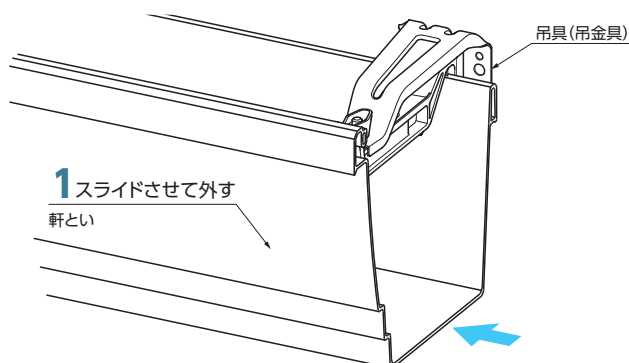


挿入ガイド

3 吊具(吊金具)がはまっていることを確認する。

【軒といの外し方(軒継手、曲りが取り付いていない場合)】

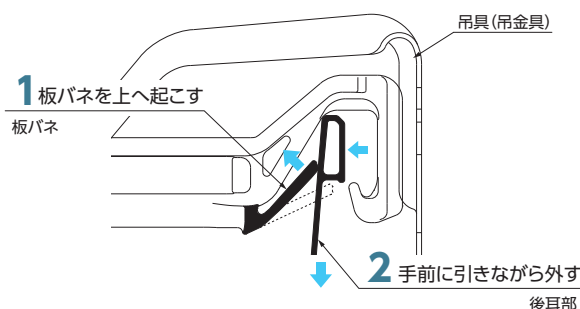
- 軒といを横にスライドさせて外す。



1 スライドさせて外す
軒とい

【軒といの外し方(軒継手などでスライドできない場合)】

- 吊具(吊金具)の後耳部固定の板バネを上側へ起こす。
- 軒といの後耳を手前に引きながら下へ下げて
1か所ずつ外す。



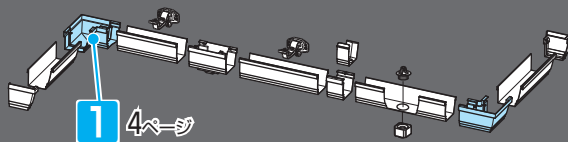
1 板バネを上へ起こす
板バネ

2 手前に引きながら外す
後耳部

ポイント

- 吊具(吊金具)の板バネを押さえるように軒といの後耳を
手前に引きながら下げると外れます。

⑥内曲り、外曲りの施工



注意



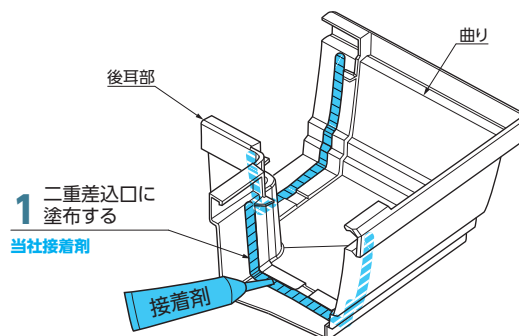
必ず守る

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

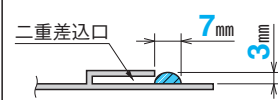
1 曲りの施工

【二重差込式の場合】

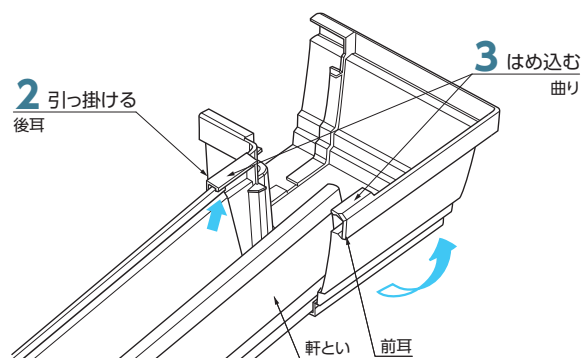
- 1 曲りの二重差込口に接着剤を
全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤)



接着剤塗布位置 (1条塗布)

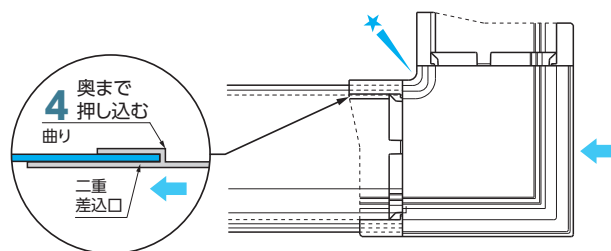
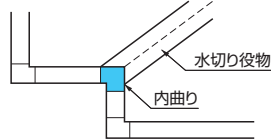
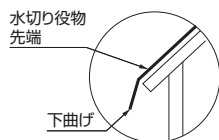


- 2 曲りの後耳部を軒とい後耳に引っ掛ける。
- 3 接着剤をかき取らないよう軒といを沿わせながら
前耳部にはめ込む。
- 4 軒といが曲りの奥まで入るように、曲りを押し込む。



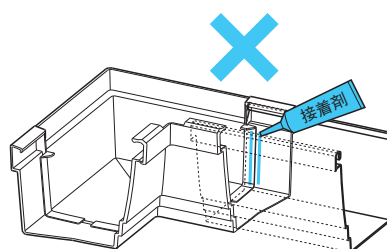
お願い

- 接着剤が軒とい・曲りの外側にはみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分に変色しますので布ですばやくふき取ってください。
- 内曲り箇所の水切り役物の軒先側先端は必ず下曲げしてください。(雨水飛び出し防止のため)

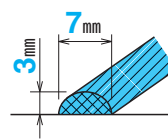


お願い

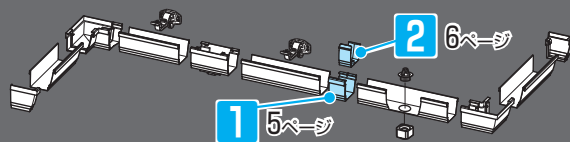
- 当社品以外の接着剤を使用しますと、変形・割れが発生するおそれがありますので、必ず当社接着剤をお使いください。
- 当社品でも、塗布量が多すぎると変形、割れが発生することがあります。
- 当社タニシールなどシーリング剤を使用したりすると、変形や割れが発生しやすくなりますので避けてください。
- 接着剤は切れ目なく塗布してください。
途切れ途切れに塗布すると水漏れのおそれがあります。



接着剤塗布量の目安



⑦軒継手の施工



注意

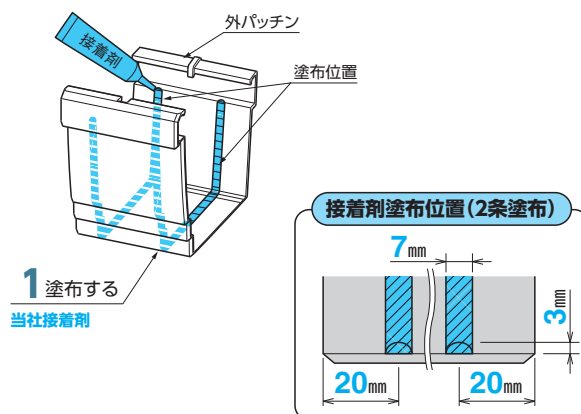
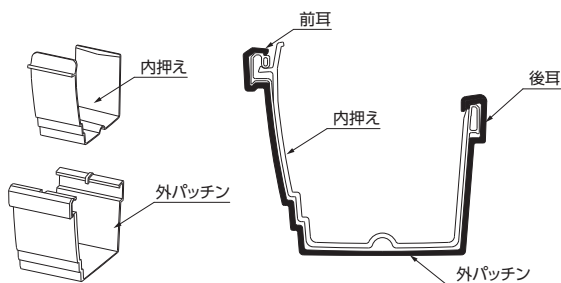


必ず守る

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

1 軒継手(外パッチン)の取り付け

- 1 外パッチンの軒といの接着面に接着剤を
全周ひも状に切れ目なく塗布する。
(当社接着剤)

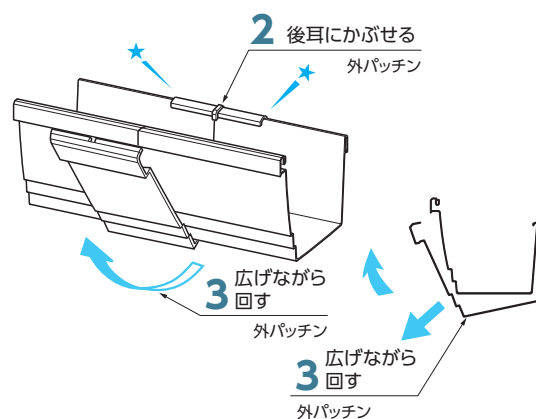


- 2 外パッチンを軒といの後耳にかぶせる。

- 3 接着剤をかき取らないように外パッチンを
手前に広げながら回す。

ポイント

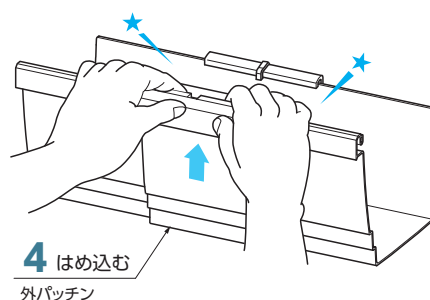
- 軒といの継ぎ目が軒継手の中央にくるように合わせてください。



- 4 外パッチンを軒といの前耳にはめ込む。

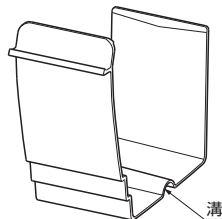
お願い

- 接着剤が軒とい・軒継手の外側にはみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分に変色しますので布ですばやくふき取ってください。



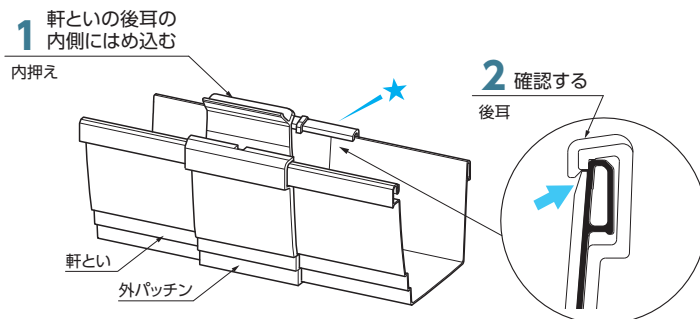
2 軒継手(内押え)の取り付け

- グランスケア PGR60の内押えは
省施工の接着レス仕様です。
中央に雨水を流しやすくする溝があります。



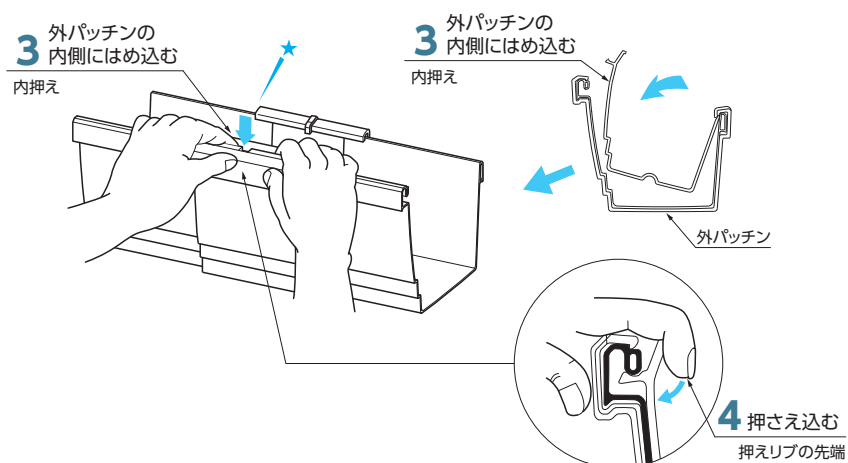
- 1 内押えを軒とい後耳の内側(外パッチンの内側)にはめ込む。

- 2 確実にはめ込まれているか確認する。

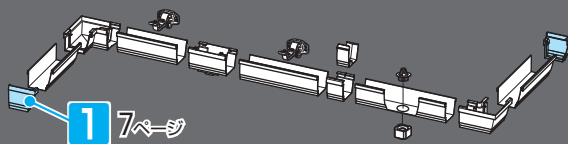


- 3 内押えを外パッチンを手前に広げながら軒とい前耳の内側(外パッチンの内側)にはめ込む。

- 4 内押えの押えリブの先端を指で押さえ込む。



⑧止まりの施工



注意

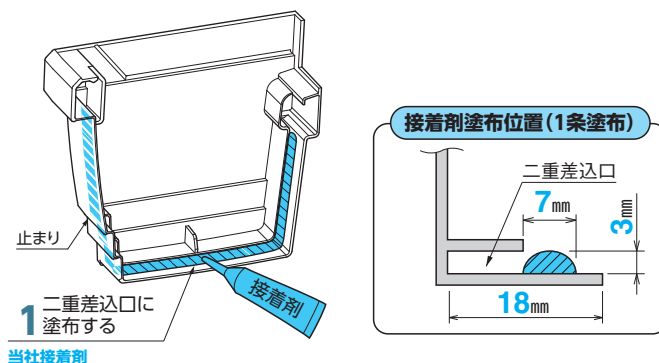


必ず守る

■接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

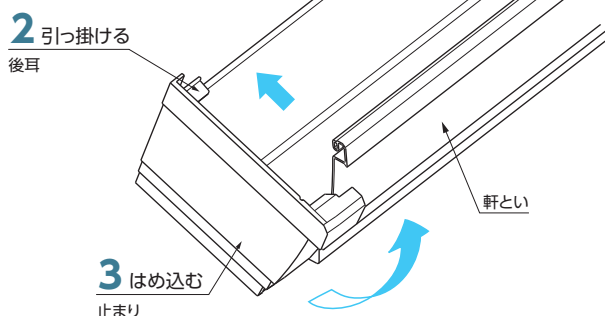
1 止まりの施工

- 止まりの二重差込口に接着剤を**全周ひも状に切れ目なく塗布する。**
(当社接着剤)



- 止まりの後耳部を軒とい後耳に引っ掛ける。

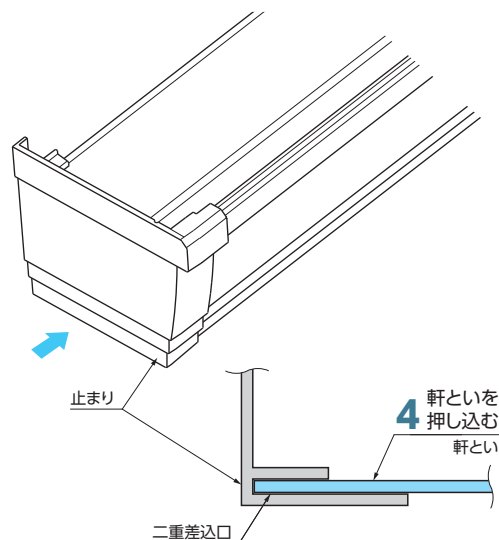
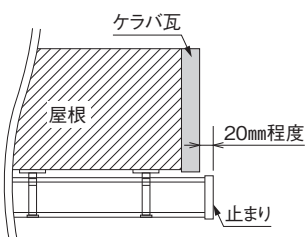
- 軒とい後耳に引っ掛けて回すようにしながら前耳部をはめ込む。



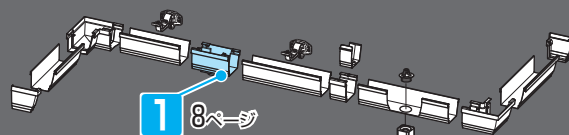
- 止まりの二重差込口の奥まで、軒といを押し込む。

お願い

- 接着剤が軒とい・止まりの外側に、はみ出したり、付着したりした場合、放置しておくとその部分が変色しますので布ですばやくふき取ってください。
- 一般的な切妻屋根の場合、軒といをケラバ瓦より20mm程度出して雨水を受けるようにしてください。



⑨ 落とし口の施工 (F型集水器)



注意

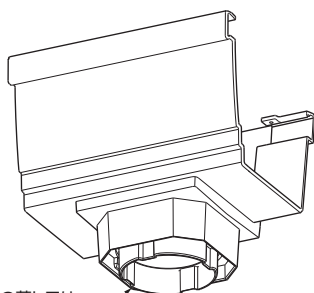


必ず守る

■ 接着剤は必ず接着剤塗布位置に切れ目なく塗布する
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

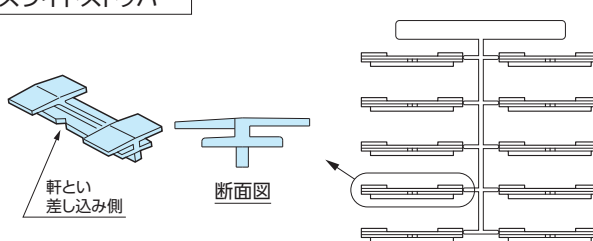
■ F型集水器は形状が軒といに近く、落とし口のオダレ加工が困難なため、スライドストッパーを軒とい端面に取り付ける
水漏れにより建物を傷めるおそれがあります。

F型集水器



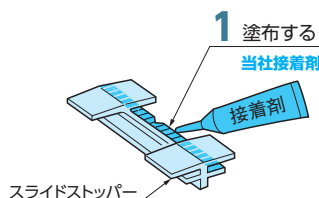
PC30・S30・60用の落とし口は
360°回転可能です。

スライドストッパー



1 F型集水器の施工

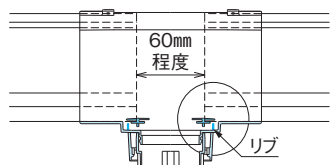
1 スライドストッパーの差し込み部に接着剤を塗布する。



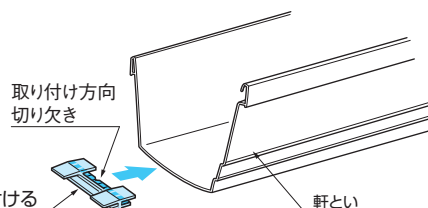
2 F型集水器を取り付ける側の両方の軒とい端面にスライドストッパーを取り付ける。

お願い

- スライドストッパーは必ずリップより内側に付けてください。

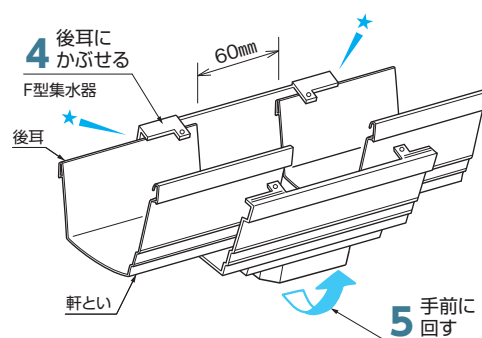


2 取り付ける
スライドストッパー



4 F型集水器の後耳部を軒とい後耳にかぶせる。

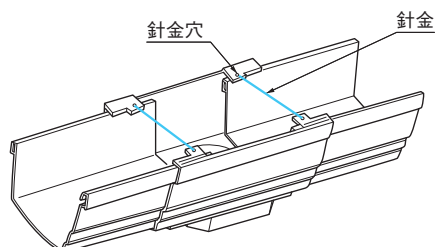
5 F型集水器を手前に回す。



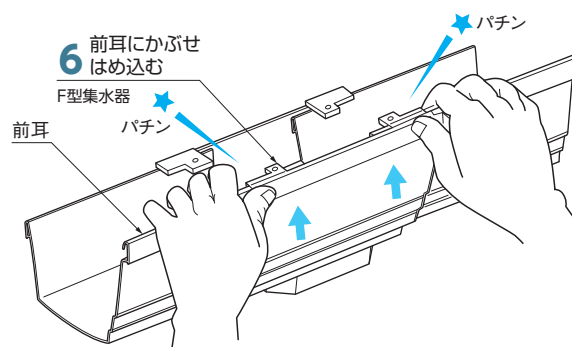
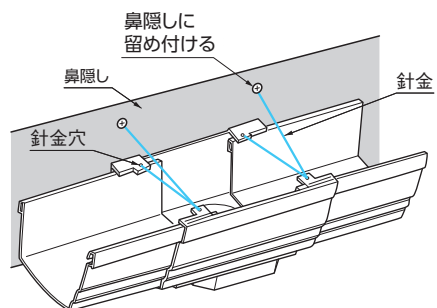
6 F型集水器を軒とい前耳にかぶせはめ込む。

お願い

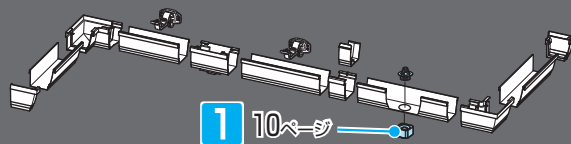
- 積雪・強風などの予想される場合は、針金穴(4か所)を利用して補強してください。



- 多雪地は、針金穴(4か所)を補強した後、針金を鼻隠しに留め付けてください。



⑨ 落とし口の施工(自在ドレン)



1

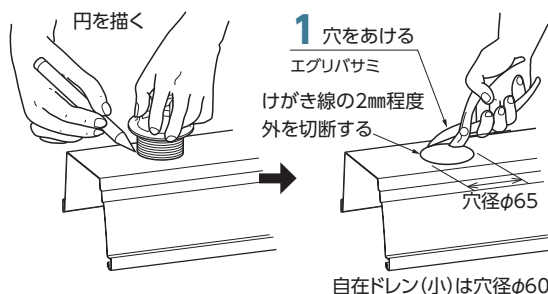
10ページ

1 落とし口の取り付け(自在ドレン)

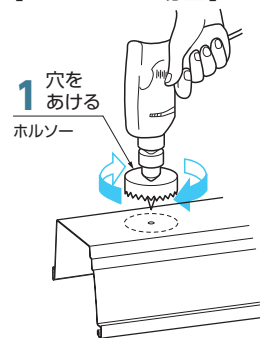
- 1 自在ドレンを取り付ける位置にエグリバサミまたはホルソーで穴をあける。

- 自在ドレン60……穴径65mm
- 自在ドレン60(小) …穴径60mm

【エグリバサミの場合】



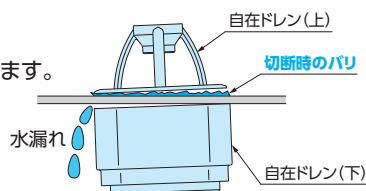
【ホルソーの場合】



- 2 加工部分のバリをきれいに取り、隙間が出ないようにする。(水漏れ防止のため)

お願い

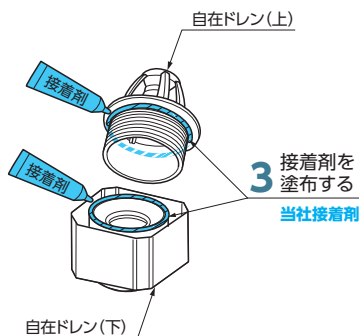
- バリで隙間があると水漏れのおそれがあります。



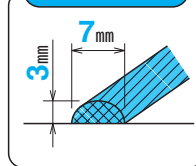
- 3 自在ドレン(上)のツバの裏側と自在ドレン(下)の接続面に接着剤を全周ひも状に切れ目なく塗布する。(当社接着剤)

お願い

- 当社品以外の接着剤を使用すると、変形・割れが発生するおそれがありますので、必ず当社接着剤をお使いください。
- 当社品でも、塗布量が多すぎると変形、割れが発生することがあります。
- 特に高耐候性仕様の商品の場合、接着剤を増し塗りしたり、当社タニシールなどコーキング剤を使用したりすると、変形や割れが発生しやすくなりますのでおやめください。



接着剤塗布量の目安



- 4 自在ドレン(上)と自在ドレン(下)を、軒といの穴をあけた部分に取り付ける。

